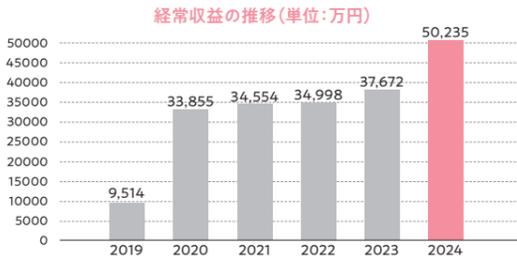
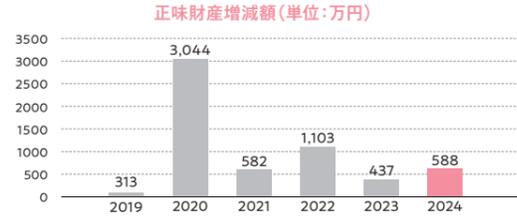


2024年度 財務報告

2024年度の正味財産増減額は約588万円となりました。本年度は、経常収益にしましては、XやInstagramなどSNSでの発信等にも力を入れたことによる寄付金額の増加や、指定管理料の増加、昨年度より引き続き休眠預金等活用法に基づく「発達障害支援の「質の向上」を目指す地域ネットワーク構築事業」の活動として資金的支援と非資金的支援を行なったことにより、約50,235万円となりました。皆様に広くご支持とご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。これからは、収益の安定化を目指し、継続的な事業の運営に役立ててまいります。ADDSは事業の収入を主としておりますが、皆様からの寄付金や補助金、助成金等を新規事業や既存事業の改善に活用させていただいております。いただいた寄付金や補助金につきましては、啓発活動や学生セラピストの活動、発達障害のあるお子様がいらっしゃる困窮家庭への支援、発達支援アプリAI-PACの支援記録をベースにした研究などに活用させていただきました。今後も指定管理事業、障害児通所支援事業の安定的な運営とともに、支援者育成事業等の健全な運営やガバナンスの強化を行い、ミッション達成に向けてより精進してまいります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。



2024年度活動計算書(単位:円)

科目	金額
<b>経営収益</b>	
1 受領寄付金	2,971,626
2 受領助成金等	415,204,361
受取助成金	120,730,677
指定管理収入	294,473,684
3 事業収益	82,922,635
支援者育成事業	13,453,643
障害児通所支援	61,163,456
収益事業	8,275,736
EDS収入	29,800
4 その他の収益	1,247,144
<b>経営収益計</b>	<b>502,345,766</b>

科目	金額
<b>経常費用</b>	
1 事業費	477,838,682
2 管理費	18,625,507
<b>経常費計</b>	<b>496,464,189</b>
<b>経常外収益計</b>	<b>0</b>
<b>経常外費用計</b>	<b>0</b>
<b>経常外費用計</b>	<b>0</b>
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>5,881,577</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>	<b>84,252,268</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>465,300</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>89,668,545</b>

以上、NPO会計基準に従ってご報告いたします。ADDSは今後も財務の健全化と透明性に努めてまいります。

わたしたちの取り組みに力を貸してください

ADDSは、発達に特性のある子どもたちとそのご家族が、安心して歩んでいける社会の実現を目指して活動しています。こういった活動は、多くの皆さまからのご支援によって支えられています。今後も、必要とするすべての子どもたちに支援が届くよう、ぜひ寄付というかたちでADDSの活動を応援してください。2025年度からは、従来の現金によるご寄付のほか、Yahoo!ネット募金さまの多大なるご協力によりVポイントやPayPayポイントを使ってのご寄付も可能となりました。また、企業パートナーシップ制度の導入により、営利と非営利の垣根を超え、より広い社会に向けた協働を加速させていきたいと思っております。お預かりしたご寄付は、年間を通してADDSが実施する全ての取り組みに大切に使用させていただきます。皆さまからのご支援が、発達支援を必要とする子どもたちとそのご家族への大きな力になります。あたたかいご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。



現金でのご寄付はこちらから(単発・毎月・毎年)



ポイントでのご寄付はこちらから



企業パートナーシップについて

正式名称	特定非営利活動法人 ADDS
所在地	東京都杉並区荻窪 5-16-14 カパビル5F (ADDS Kids 1st 荻窪)
施設概要	児童発達支援事業・主たる事務所
共同代表(理事)	熊仁美 竹内 弓乃
理事	原 由子 加藤 愛理
監事	河野 良雄
法人資格取得	2011年12月16日
常勤職員	34名
非常勤職員	37名
運営事業所	ADDS Kids 1st 鎌倉 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比が浜三丁目11番48号 由比が浜こどもセンター 3F 施設概要:児童発達支援事業、相談支援事業  江戸川区発達相談・支援センター(指定管理) 〒132-0035 東京都江戸川区平井四丁目1番29号 施設概要:児童発達支援センター、相談支援事業、発達障害相談センター



公式サイト



Facebook



X



Instagram



Youtube

デザイン:相澤 健志 [Zebradesign] Design & Photograph Zebradesign

2024

15th Anniversary

# ANNUAL REPORT

特定非営利活動法人ADDS 2024年度年次報告書

すべての人が希望をもって  
生きていける社会へ

発達「支援」の、その先へ

**ADDS**  
Advanced Developmental  
Disorders Support

# Message

## 支援の輪を広げ、ともに社会を変えていくために

皆様のおかげをもちまして、当法人は設立15周年を迎えることができました。これまでの歩みを支えてくださったすべての方々に、心より御礼申し上げます。設立当初は小さな一歩から始まった活動も、現在では安定して通所施設を運営できるようになり、制度事業の広がりとともに組織の規模も大きく成長してまいりました。また、行政との連携や、全国の事業者の皆様とのネットワーク構築も進み、支援の輪が一層広がりつつあります。

一方で、日本の福祉制度は未だエビデンスに基づく政策決定には十分に至っておらず、研究と実践の積み重ねを土台に、当事者やご家族とともに声を上げられる仕組みの必要性を痛感しています。さらに、自然災害の影響を受けた地域や経済的困窮、不登校、就労の難しさ、さらには犯罪被害に直面する状況など、社会の多様な困難の中で、発達障害に関わる重層的な課題が表面化してきており、多くの方々が支援を必要としています。

こうした制度の届かないところに試行錯誤を重ねながら支援を届ける活動は、私たちの力だけでは持続させることができません。ここから先は、皆様とともに社会を変えていくことに本気で取り組んでまいります。今後とも変わらぬご理解と温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



共同代表 熊仁美  
心理学博士 公認心理師

共同代表 竹内弓乃  
臨床心理士 公認心理師

## 発達障害とは？

脳の働きの多様性。その子に合った育ちと学びを。

発達障害は、複数の遺伝的要因と環境的要因が複雑に影響し合って発症に至る先天的な障害であることが分かっています。特性の内容や程度は一人ひとり異なり、それぞれに合った支援が必要です。特効薬はなく、発達支援などで環境を調整し行動に働きかけることで、困難が軽減され、本人のペースで学べるようになっていきます。適切な支援を受けることで、発達障害のある人は強みを活かし、社会での生活をより良く送ることができるのです。



## 保護者の声

### 保護者は、支援に対しどのようなことを望んでいるのか？

私たちが実施した全国調査では、901名(有効回答者数760名)の保護者から貴重なご意見を集めることが出来ました。

全国3万箇所にも及ぶ障害児通所支援施設(児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所)を利用する、発達障害がある児童の保護者の方を対象に、支援に望むことに関するアンケート調査を実施しました。調査の結果、保護者の多くは、「障害のある子もいない子と一緒に過ごせる環境(インクルーシブな環境)が良い」という思いと、「子どものできることを一つでも増やしてあげたい」という願いを強くもっていることが示されました。

これを実現するには、地域の幼保園や学校などで適切な配慮を受けながら過ごせるインクルーシブな環境づくりと、それだけ

では補えない一人ひとりの特性に合わせた育ちと学びの機会の充実の両方が必要です。

また、マンツーマンの個別支援と、2名以上の児童を対象とした集団支援において、保護者が我が子の良い変化を実感している得点を比較したところ、「個別支援のみ」「集団支援のみ」よりも「個別支援と集団支援を両方」を受けている児童の保護者のほうが、良い変化を実感していることが示されました。制度においても、個別支援と集団支援がバランスよく提供される仕組みが望まれます。

## 増加する発達障害と支援制度の課題

2022年の文科省の調査(注1)では、公立の小中学校の通常学級に、実に8.8%の割合で発達障害やその傾向のある児童が存在すると報告されています。また、2025年4月に発表されたアメリカ疾病予防管理センターの最新調査(注2)では、2022年時点で8歳児における自閉スペクトラム症(ASD)の発症率は31人に1人であると報告されており、2012年の同調査(注3)から2倍以上に増加しています。増加の理由には、診断基準の整備や早期発見の強化などが挙げられます。

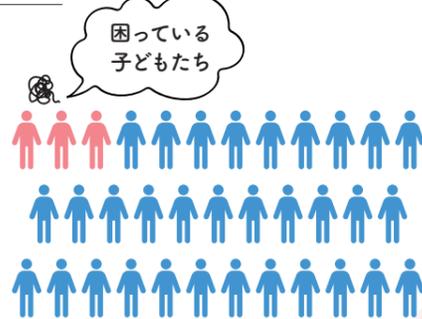
支援を必要とする児童は非常に多く、その需要に対して制度改正も進み、この10年間で支援機関の数は右肩上がりに増加し、2024年度には全国約3万箇所を数えます。受け皿や利用児童数は増えたものの、現場で提供される支援の質の保証は難しく、質のばらつきや低下が大きな問題となっています。

(注1)通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について：文部科学省

(注2)U.S. Centers for Disease Control and Prevention. Prevalence and Early Identification of Autism Spectrum Disorder Among Children Aged 4 and 8 Years — Autism and Developmental Disabilities Monitoring Network, 16 Sites, United States, 2022.

(注3)U.S. Centers for Disease Control and Prevention. Prevalence and Characteristics of Autism Spectrum Disorder Among Children Aged 8 Years — Autism and Developmental Disabilities Monitoring Network, 11 Sites, United States, 2012.

### 発症率は？



35人級であれば3人ほどの割合

発達障害の可能性のある児童通常学級に8.8%

通常級に在籍する小中学生で「学習面または行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒数の割合(2022年12月13日：文部科学省)

自閉スペクトラム症の発症率31人に1人

(2025年4月17日：アメリカ疾病予防管理センター)(注2)

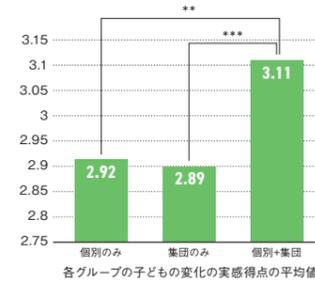
### 発達障害があるお子様の「保護者の声」を集めるアンケート調査

●実施期間：2024年11月28日～12月23日 ●対象者：障害児通所支援施設を利用中の子どもの保護者(回答者901名、有効回答760名)  
●対象地域：全国 ●調査方法：webアンケート

詳しいアンケート  
結果報告はこちら



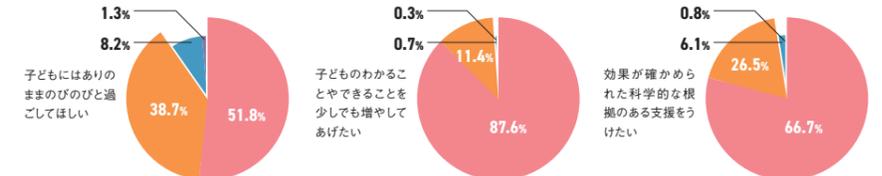
### 個別支援と集団支援の両方を受けている子どもの保護者のほうが支援効果を実感している



「個別支援のみ」と「集団支援のみ」のグループの得点に有意な差は無い。「個別のみ」「集団のみ」よりも「個別+集団」が、有意に子どもの変化の実感得点が高い。

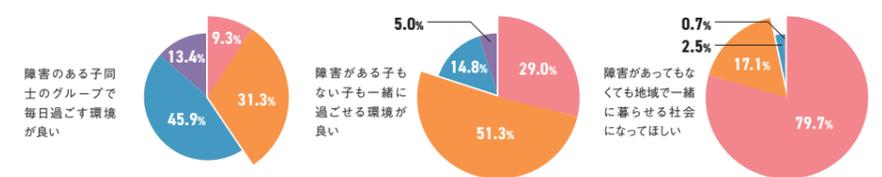
個別支援と集団支援を組み合わせ実施したほうが、保護者は子どもの変化を実感しやすいことが示唆された。

### 保護者は子どもの発達を促す効果的な支援を求めている



「ありのまま」を受け止めながらも、一人ひとりの発達を促すために、エビデンスのある支援が求められている。

### 保護者はインクルーシブな育ちの環境を希望している



保護者は、障害児のみの毎日通園よりも、インクルーシブな環境を希望している。

■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

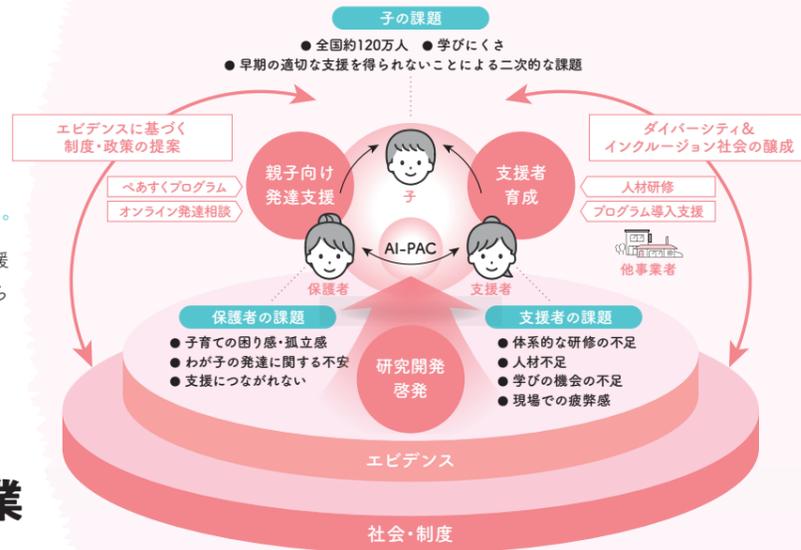




### MISSION

発達支援が必要なすべての人が自分らしく学び希望をもって生きていける社会をともに実現します。

ADDSでは、発達支援が必要な子どもたちやその家族、支援者、社会の抱える課題を解決し、誰もが自分らしく学び暮らせる社会を実現するため、3つの事業に取り組んでいます。



## 1 親子向け発達支援事業

～家族が知る、子どもが変わる。

### 親子で学ぶ発達支援プログラム「べあすく」

セラピストがお子さんへの個別支援を行う間、別室で保護者の方も応用行動分析(ABA)について学べるプログラムで、ご家庭でも療育に取り組むことができます。



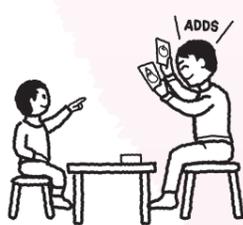
べあすく

### >> AI-PAC®とは

行動的・発達の観点による5領域600課題からなるカリキュラムを軸に、一人ひとりのお子さんに合わせた進捗管理や、記録を通じた家庭との連携、支援計画の作成や、教材や動画の活用などができる革新的なアプリケーションです。



AI-PAC



# ADDSを大解剖!

発達に特性のある子どもたちとその家族、そして支援に関わるすべての人のために——。ADDSはこれまで、現場と研究の架け橋として、社会の“あたりまえ”を更新し続けてきました。でも、私たちが日々どんな活動をし、どんな想いで動いている

のか、実はあまり知られていないかもしれません。そこで15周年記念特別号では、ADDSの「中身」を徹底解剖! 知っているようで知らなかったADDSのすべてに、ようこそ。

### 各地に広がるADDSの環

～AI-PAC導入事業者～

茨城県・群馬県  
こどもさーく

埼玉県  
放課後等デイサービス ミライエ戸田

千葉県  
ふりんぐあっぷらば 子ども発達センター  
児童発達支援 にじいろデイズ市川新田  
社会福祉法人 まつど育成会

東京都  
江戸川区・発達支援相談センター  
放課後等デイサービス ミライエ日本橋

徳島県  
徳島県教育委員会 特別支援教育課

愛知県  
合同会社おもしろ  
ごきげんテラス

神奈川県  
一般社団法人 キッズライン  
放課後等デイサービス ミライエ鎌倉

導入施設一覧

### オンライン発達相談サービスkikotto(キコット)

～「いつでも・どこにいても・どなたでも」気軽に専門家に相談できる～

お子様の発達に関する不安やお困りごとについて、マンツーマンでLINEチャットやZOOMビデオ通話で相談できるサービスです。発達心理学とABAを長年学び実践を積んできたスタッフが、実際のお子様とご家族の状況に合わせたアドバイスや伴走支援を行います。



kikotto



## 3 研究開発・啓発事業

～エビデンスに基づく支援があたりまえの社会に。

### 行政への働きかけと連携

エビデンスに基づく支援が広がり、質の高い発達支援がより多くの子どもたちと親子に届く社会になるよう、実践と研究に基づく提言を行なっています。また、江戸川区や鎌倉市では、行政と連携し、地域の支援力向上に向けた取り組みを進めています。



こども家庭庁との連携

### 各種シンポジウムや啓発イベント

学会やシンポジウムなどで、現場実践から得た研究成果や新たな取り組みについて発信しています。また、さまざまなイベントやSNSでの発信を通して、発達障害への理解を促し、インクルーシブな社会の実現を目指しています。



各種シンポジウム

### 研究・調査活動

プログラムの効果検証や、保護者の声を集める調査活動などを行なっています。また、全国各地の団体と協働し、発達支援の質の評価の仕組みの開発や、エビデンスに基づく発達支援に取り組むネットワークの構築にも取り組んでいます。

### 発達「支援」の、その先へ

私たちは、このような事業を通して、いずれは、発達「支援」の枠組みを超えて、誰もが個の違いを認め合い、活かし合い、自分らしく幸せに暮らせる社会の実現を目指しています。

エビデンスに基づく発達支援を提供した親子の数

実人数: 838人 (前年比+437)

延べ人数: 30,228人 (前年比+7,537)

相談支援提供延べ人数

9,230人

2024年度に相談支援を提供した延べ人数です。江戸川区発達支援相談センター、ADDS Kids 1st鎌倉、オンライン発達相談kikottoにて受け付けた様々な相談に対応しました。

様々な形でご支援くださっている

サポーターさまや

～皆様の温かいご声援を追い風に、更なる加速を目指して～

企業パートナーさまとともに



「なかま」とともに

### >> 応用行動分析学(ABA)って?

発達支援の基礎となる応用行動分析学(ABA)は、目標を立て、達成度を見極め、支援方法を進化させるPDCAのサイクルを繰り返し、子ども一人ひとりの豊かな学びに徹底的に向き合う方法論です。子どもの、「きっかけ-行動-結果」の3つの枠組みで捉え、周りの環境や関わり方を変化させることで、子どもの行動の変容を促し、相互の関わりをポジティブにします。

## 01 ADDSは最強のヒューマンサービスを実現し続けるか

ADDSは、設立当初より、ミッションにうたわれているように「エビデンスに基づいて」「科学的根拠のある方法」を用いた発達支援を行ってきた法人です。「エビデンス」「科学的根拠」とは、①国際的な研究によって効果が示されている最先端の知見、②客観的に測られた子どもたちへの実践の効果、③それらを統括してつくった仕組みの成果です。社会に貢献するとは、多くの人の「エビデンス」「科学的根拠」を使いこなす行動を促進し、その成果を累積し、共有することで、その行動が当たり前になることです。

ADDSは、「アセスメントしました」「取り組んでいます」をはるかに超えて、実践の結果を得て、常に、PDCA(計画-実行-評価-再実行)を繰り返し、子どもたち、保護者、支援者のよりよい未来と希望ある社会を実現する活動を進めてきました。大きな特徴は、多くの大学の研究者や力量のある実践家を巻き込んで、その知見を引き出し、咀嚼し、自分たちのものにし、独自の支援・実践方法、検証方法を創出し、成果をあげてきたところにあります。

私は、ADDSの行動を見ながら、「誰もやっていないぜ」「す



山本 淳一氏  
東京都立大学特任教授  
慶應義塾大学名誉教授

ごい仕掛けと仕組だ」「トップに立ったな」などということばを、まわりの人や私自身に発しながら、15年間見てきました。ADDSの活動が、私の徹底的研究者としてのたましいに火をつけ続けている限り、関心を持ち続けると思います。そして、直接的・間接的・潜在的に「エビデンス」「科学的根拠」を提供し続けると思います。

## 02 “知っている人だけ”の支援をなくすために — 保護者の願いと声

### ➤ ADDSとの出会い

2009年、ADDS創業時のVBM(仮取締役会)にボードメンバーとして参加したことが最初の出会いです。経営大学院の同級生から、我が家の課題に関わる将来有望な社会起業家がいると紹介され、その志とビジョンに強く共感しました。次女と家族の将来に希望を見出し、胸が高鳴ったことを今でもよく覚えています。

### ➤ 療育を振り返って、いかがでしたか?

2007年8月、次女が重度知的障害と多動傾向を伴う自閉症と診断され、手探りで自宅療育を始めました。思うように進まず、つい強い言葉をかけてしまうこともありました。そんな時、ADDSに出会い、学生セラピストのお二人が関わってくださったことで、子どもや自分の関わり方を客観的に見られるようになり、心に余裕が生まれました。本当に救われた思いでした。

### ➤ 療育を受けて今役立っていること

療育を通じて、次女の笑顔が増えたことが何よりの成果です。かつては言いたいことを伝えられず、奇声や自傷が見られましたが、今では家庭でも福祉園でも穏やかに過ごしています。周囲から温かく受け入れられ、愛されていることが、私たち家族にとって何より嬉しいことです。

### ➤ 苦勞したこと、乗り越えたこと

めぐみの障害を、家族が理解・受容するまでには時間がかかり、多くの衝突や葛藤もありました。特にめぐみの姉と兄は妹のことで辛い思いをしたこともあったようです。でも、めぐみ自身ができることを少しずつ増やし、困難を乗り越える姿を見せてくれたことで、家族も自然と受け入れていけたように思います。彼女が教えてくれたのは、「違い」ではなく「その子らしさ」に目を向ける大切さでした。

### ➤ 最近のお子様のご様子

現在20歳になり、障害基礎年金を受給しています。毎朝6時に起きて2kmの散歩をし、洗濯物を干してから福祉園に通っています。園では若手女子として人気者のようです。休日はタンDEM自転車でのサイクリングや外食、買い物を楽しむのが定番。雷や暴風雨以外は、ルーティンを欠かすことはありません。

### ➤ あの時〇〇があればもっとよかったのと思うこと

現在は夫婦ともにフレックスタイムや在宅勤務が可能な職に転職し、支援と仕事を両立しやすくなりました。当時も会社は配慮してくれましたが、社会全体として今ほど柔軟な働き方は一般的ではありませんでした。もし当時に今のような制度があれば、もっと余裕を持って向き合えたかもしれません。兄弟児への支援や配慮について学ぶ機会があったらと思います。私自身、長女、長男への配慮が足りなかったことを反省しています。

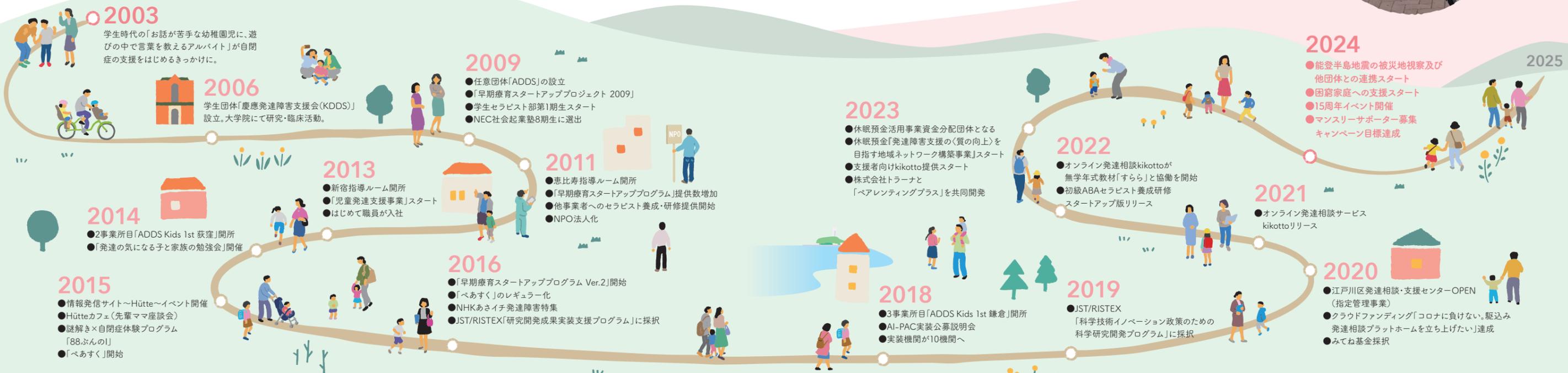
### ➤ 丹野さんが社会に望むこと

障害のある子どもの保護者は、知識や支援制度の情報が少ない中で突然大きな課題に直面します。応用行動分析に基づく早期療育が標準的に選ばれ、経済的にも心理的にも支援の届く社会が必要です。福祉制度や支援のネットワークが「知っている人だけのもの」にならないよう、すべての家族に届く仕組みにしていけることを願っています。



丹野 優さん

## ADDSの歩み



# ADDS Kids 1st 鎌倉を覗いてみよう!



『子育てを楽しめるようになることを療育のゴール』として、お一人お一人に合わせて丁寧に療育プログラムを提供しています! 具体的には何をしているか? 私たちの取り組みの一部をご紹介します!



べあすくプログラム



『親子で学ぶ』オーダーメイドの療育です。ABA(応用行動分析学)に基づく内容で、ペアレントトレーニングではご家庭での取り組み方をサポートします。

ADDS Kids 1st 鎌倉フロアマップ



担当者会議



相談支援事業所として、保護者(ご本人)・通所支援事業所スタッフとともに、より良い支援にむけて情報を共有しています。

びあプログラム



就学準備または、地域の幼稚園・保育園での集団活動参加を念頭に、個別療育支援やべあすくで身につけたスキルを2~5名程度の小集団で般化する機会を設けています。

トイレ



男児用・女児用・バリアフリーの3種のトイレをご用意しています。

モニタリング



個別支援計画に基づき、保護者と子どもの成長や支援内容の振り返りを定期的に行います。

## アナレポ読者限定 セラピストクイズ

ADDSの現場で活躍しているセラピストたちは日々接しているお子様に対して、科学的根拠に基づいた理論のもと、最も効果的なアプローチをとるように心がけています。以下の3つの場面で2パターンのアプローチ方法をご視聴いただき、AとBのどちらが良いセラピストなのかを考えてみてくださいね!

注意をひきたい時 A



子どもが答えられない時 A



フラッシュカードの進め方 A



注意をひきたい時 B



子どもが答えられない時 B



フラッシュカードの進め方 B



## マルチなスタッフ 菊地麻美の多岐にわたる活動を大公開!



菊地 麻美 (2015年にADDSに参画)

### 担当してきた業務

- 直接支援(まなぶろ・べあすくなどの個別、集団、コンサル)
- 支援者育成(SV、初級ABAセラピスト養成研修、そのほか新人研修、内部の定期研修、幼稚園教諭向けの研修)
- 幼稚園や保育園への巡回業務

### 資格

保育士、初級および中級ABAセラピスト、地域支援マネージャー、強度行動障害支援者養成研修修了(実践研修)、児童指導員

### ONE DAY 他事業所での研修支援

初級ABAセラピスト養成研修のため、他事業所を訪問。ABAに基づく視点を共有しながら、現場での工夫や支援の引き出しを増やしていきます。日々の支援に活かせる工夫を一緒に考え、小さな「うまくいった」の積み重ねが、確かなスキルへとつながるようサポートしています。

### ONE DAY 江戸川でのスタッフ育成

江戸川区発達相談・支援センターでは、支援の質の向上を目指し、現場のスタッフとともに支援のあり方を見直したり、関わり方の工夫を考えたりする機会があります。中級セラピストと日々の気づきを持ち寄り、育成の方向性を相談したり、新人さん向けに研修を開いたり。全体で集まる会議では、学び合う時間もついています。

### ONE DAY 支援者とともに考えるSV

SVは、支援者と一緒に、子どもへの関わりや支援の方向性を整理し、よりよい実践につなげていく時間です。法人内スタッフに限らず、ADDSが提供しているプログラムや自主開発した支援者向けツールを導入している外部事業所の支援者とも連携し、現場に入って支援の様子を一緒に見ながらフィードバックを行うこともあります。対面に限らずオンラインでつながることもあり、映像と一緒に見て支援を整理したり、目の前の関わりを言語化したり。遠方の方とも繋がれるオンラインの良さを活かしながら、支援者の視点を深めるお手伝いをしています。支援者が安心して現場に立てよう、言葉を選びながら、必要な視点を丁寧に伝えるよう心がけています。

## 支援者育成

ADDSでは、子どもたちによりよい支援を届けるため、支援者自身の学びと成長を大切にしています。それぞれの段階に合わせた丁寧なサポートを行っており、現場に立ち始めた支援者には基礎的な研修を、実践を重ねる支援者には継続的なサポートを通して、支援の質の向上を目指しています。また、AI-PACやべあすくを導入している外部事業所とも連携し、支援の様子をもとに関わり方や組み立てについて助言することもあります。支援の背景とともに整理し、次に踏み出す一歩を見つけていくことで、安心して支援に取り組める環境づくりを目指しています。

セラピスト育成



発達支援プログラム



AI-PAC実装先【多機能事業所 ハグピア】におけるスタッフ研修

## kikottoを通して見えてきた発達支援のニーズ

### 子育てを支えるオンライン発達相談「kikotto」

kikottoは、0~12歳のお子さんを持つ保護者を対象に、LINEやZOOMを活用したオンライン発達相談を提供しています。言葉の遅れや痲痺などの日常の困りごとや、医療・療育・学校との関わり方などあらゆる相談に回答し、不安な気持ちにも寄り添います。経験豊富な相談員がエビデンスに基づく知見と豊富な事例をもとに丁寧に対応しています。

kikotto



### 発達支援の知見を現場へ、未来へ

kikottoでは保護者向けの相談に加え、学童やスポーツクラブなどお子さんと接する現場の職員向けにも研修や相談の機会を提供しています。発達支援の知見を通じて、職員の方々が支援や関わり方に自信を持ち、ポジティブな対応が増えることで、困りごとを減らすだけでなく、お子さんの可能性や「できる」を伸ばす実践が広がっています。

団体向け kikotto



# 2024 activity report

## 2024年度の主な活動内容

ADDSが取り組んだ活動の成果と挑戦を紹介します。

### 2024 Activity 1

#### 発達障害支援の質向上を目指す3年事業、1年目の成果と今後の展望

本事業は、発達障害及びその可能性のあるお子さんが、その特性に応じた適切な支援を受けられる社会の実現を目指し、支援の質の向上と地域における支援ネットワークの構築を目的として、2024年にスタートした3年間の取り組みです。休眠預金を活用し、1年目となる2024年度は、基盤整備や関係機関との連携構築に注力しました。

2025年2月には、事業の一環としてシンポジウムを開催。こども家庭庁の発達障害児支援専門官をはじめ、研究者、医師、大学教授、全国の支援事業所の代表者、行政関係者、国会議員など多彩な登壇者が集結し、科学的エビデンスに基づく支援の重要性について活発な議論が交わされました。参加者は138名にのぼり、社会的機運の醸成と今後の課題解決に向けた大きな一歩となりました。現在は2年目に入り、初年度で得られた知見とネットワークをもとに、実践と効果検証の深化に取り組んでいます。



※本事業は、特定非営利活動法人ADDSとREADYFOR株式会社によるコンソーシアム体制のもとで実施され、両団体が資金分配団体として、事業を行う団体へ資金的・非資金的の支援を提供しています。

### 2024 Activity 2

#### ADDS 15周年記念イベントを開催しました！

皆様に支えていただき15周年を迎えることができ、心からお礼申し上げます。感謝の想いを形にしたく何度も協議を重ねて対面イベントを開催し、147名もの皆様にお越しいただきました。イベントでは、スライダー付ふわふわコーナー・ピタゴラスイッチコーナー・緑日コーナー・おもしろアートコーナー・家族撮影コーナー・似顔絵コーナー・なりきりキューチューバーコーナーなど、お子さんが好きなブースを選べるように計画しました。ご家族が少しでも安心して過ごすことができるようにとセンサリールームを用意させていただきました。

ADDSに通っていただいたご家族と子ども達や関係者の皆様に直接感謝を伝えることができたこと、久しぶりにお会いした子ども達の姿、会場全体が笑顔に溢れていたこと、今でも忘れられない宝物のような1日になりました。

開催にあたりまして、ボランティアの皆様、お力添えいただいた多くの皆様とも出会うことができました。新たな出会いに更に感謝の想いが大きくなり、また、これからも皆様と『ともに』社会を変えていく活動の原動力となりました。

お越しいいただいた皆様、想いを寄せてくださった皆様、開催にあたりご協力いただいた皆様に改めて心から感謝申し上げます。



ピタゴラスイッチコーナーで夢中に遊ぶ子ども達！



ADDSスタッフ・ADDS学生部・ボランティアの皆様



よしお兄さんのスペシャルライブ！一緒にダンスをしたり歌ったり、盛り上がりました！



ADDS学生部は緑日ブースをつくりあげてくれました！輪投げが大好評！

### 2024 Activity 3

#### 「なかま」とともに次の15年へ—発達支援の未来を切り拓く

制度にとらわれない支援活動を持続的に展開していくため、設立15周年の節目に「なかまあつめキャンペーン」を実施しました。2024年8月4日から12月31日までの期間に、毎月のご寄付でADDSを支えてくださる新規マンスリーサポーター100名との出会いを目標に掲げた本キャンペーンは、最終的に125名の方から継続的なご支援をいただく結果となりました。お寄せいただいた皆さんの応援メッセージを一つひとつ法人内でも共有し、こんなにもたくさんの方が私たちの活動に共感してくださっていることに感謝するとともに身が引き締まる思いで受け止めております。これから歩むべき道を一步一步踏みしめていく決意を新たに、2024年度が締めくくられました。

学生団体として活動を始めてから20年以上、多くの方に支えられて歩んできた私たちにとって、本キャンペーンは次の15年を見据えた挑戦への大きな一歩となりました。これからは、キャンペーン前から支え続けてくださっている寄付



12月10日に当初目標の100名を達成し、最終的には125名の方が継続寄付に申し込んでくださいました

者の皆様、キャンペーン中そしてキャンペーン後に新たに手を挙げてくださった寄付者の皆様や、企業パートナー様を始めとする沢山の力強い「なかま」とともにミッション達成に向けた取り組みを一層進めてまいります。

### 2024年度活動履歴

- 4月 ●【共同代表 熊執筆】日本評論社『こころの科学』内の「応用行動分析に基づく支援」
- 5月 ●【熊登壇】ニューロダイバーシティサミットJAPAN～2040年代の療育
- 【熊寄稿】公認心理師ベーシック講座 福祉心理学（KS心理学専門書）内の「第5章 発達障害の早期療育」
- 【被災地支援】共同代表 竹内と数名の法人スタッフが「のど未来トーク」にボランティアとして参加
- 【熊登壇】公認心理師の年次総会@東京大学
- 【竹内登壇】竹内が副代表を務める日本放課後学会の第一回研究大会に参加@岡山大学
- 【竹内登壇】NPO法人ETICが運営する社会起業塾イニシアティブ主催のオンラインイベント
- 8月 ●15周年記念イベント開催～ADDS利用者、卒業生そして関係者の方向け～
- 【寄付キャンペーン】マンスリーサポーター100名を目指したキャンペーンスタート
- 【熊竹内登壇】日本行動分析学会 第42回年次大会 自主企画シンポジウム@駒澤大学
- 【竹内登壇】社会起業塾イニシアティブ～未来を創る担い手を育てる～予科プログラム
- 【熊話題提供】日本心理学会第88回大会 公募シンポジウムにて「自閉症スペクトラム症の早期介入の為の実践理論」@熊本城ホール
- 9月 ●【視察受け入れ】愛媛県愛南町より保険福祉課と社会福祉法人が鎌倉事業所に来所
- 10月 ●寄付月間2024 賛同パートナーとして活動スタート
- 【オフライン研修会開催】学童保育事業者Chance For All校舎にて実践研修
- 研修を開催学生セラピスト部定期ミーティング開催
- 【スタッフ登壇】Google社にてオンライン発達相談kikottoの生成AI活用について、kikottoプロジェクトマネージャー本多がセミナー開催【竹内参加】新公益連盟合宿（石川県）
- 11月 ●【熊登壇】こども発達支援研究会にて「エビデンスに基づくABAの評価とアプローチ」
- 【熊登壇】日本発達神経科学会第3回学術集会にて「ABAに基づいた実践について」@国立障害者リハビリテーションセンター
- オンライン発達相談kikotto公式サイトリニューアル
- 【視察受け入れ】信州大学、長野県教育委員会、教育実践ABA勉強会の視察団が鎌倉事業所に来所
- 【竹内登壇】アプリninaru主催オンライン教室にて「0～1歳の知育遊び講座」
- 12月 ●【寄付キャンペーン】キャンペーン終了—NEXTゴールの125名達成
- 1月 ●【視察受け入れ】公益財団法人ベネッセこども基金が鎌倉事業所に来所
- 【竹内登壇】相模女子大学人間心理学科の学科講演会
- 【先輩ママ講演会実施】早期療育の振り返り、就学前後のアドバイス、卒業後も活かされている学びについて等
- 2月 ●【シンポジウム開催】「大激論！日本の発達支援の未来～支援の質をよりよくしていくために～」@渋谷loft9
- 3月 ●【熊寄稿】日本行動分析学会ニュースレターにて「自閉スペクトラム症の早期介入のための実践理論：2030年代を見据えて」
- 令和6年度事業所評価公開【ADDS Kids1st鎌倉・ADDS Kids1st鎌倉】

### 2024年度メディア掲載

- 4月 ●【WEB掲載】POLICY DOOR～「実践に基づくエビデンス」の確立を目指して～ 熊対談
- 【WEB掲載】子育て情報サイトAERA with Kids+ ADDS監修「発達でこぼこキッズ」第4話配信 ※以後、2025年3月第16話まで定期配信
- 【雑誌掲載】Forbes JAPAN 6月号 世界を救う希望100人に熊と竹内が出選
- 6月 ●【WEB掲載】Forbes JAPAN 6月号ウェブ版掲載【NEXT100】に熊と竹内が出選
- 9月 ●【テレビ出演】MBSドキュメンタリー番組「映像'24」【ハサミのミライ～発達障害児に寄り添う美容師～】にて、ADDS通所利用者様と竹内が出演
- 10月 ●【雑誌掲載】Forbes JAPAN 12月号「今注目のNPO50」に出選
- 11月 ●【WEB掲載】東洋経済education×ICT特集ページ
- 1月 ●【WEB掲載】『厳選』おすすめNPO法人徹底解説で紹介—HUSTAR株式会社：スタディチェーン
- 2月 ●【新聞掲載】シンポジウムの様子が毎日新聞朝刊（東京都版）に掲載
- 3月 ●【WEB掲載】世界自閉症啓発デー日本実行委員会公式サイトに4月開催予定のADDSトークイベント掲載
- 【WEB掲載】子育て情報サイトAERA with Kids+ ADDS監修「発達でこぼこキッズ」第16話配信—連載終了